

次世代担うアジア100人に

医療法人社団芳佑会理事長で高柳クリニク院長の高柳芳記さんが、英字新聞ジャパンタイムズ（11月6日付）の「次世代を担う100人のCEOアジア2014」に選ばれた。北海道で唯一、7種類の細胞を使った免疫治療を行うがん統合医療外来を開設していることなどが評価された。100人のうち日本人は29人で、通販大手のジャパネットたかた高田明社長、ミドリムシを使った健康食品やバイオ燃料を開発している東大発ベンチャー、ユーグレナ出雲充社長らが名を連ねている。（聞き手・三坂郁夫）

統合医療外来拠点に

アジアCEOの100人に選ばれました。今の気持ちは。

高柳 光栄です。2012年にがん統合医療外来の拠点となるがんでイカルクリニクカルナメドを札



ボラトリー社と連携すること、免疫細胞の培養から臨床までのタイムラグを無くし、悪性がんの末期進行

患者にスムーズな治療を提
供しています。民間でラボ
世界でも画期的な治療グル
ープができたと自負してい
ます。

高柳クリニク院長

高柳 芳記さん



がん統合医療外来で免疫治療を行う高柳さん

たかやなぎ・よしのり 1959年釧路市生まれ。杏林大学医学部卒。国立国際医療センター眼科勤務などを経て1989年、釧路市で高柳眼科を開業。2012年、札幌市にがん統合医療外来専門のがんメデイカルクリニクカルナメドを開業。55歳。

免疫療法とは。

高柳 患者の体から免疫細胞を取り出し、がんを攻撃する免疫細胞へと培養して患者の体内に戻す治療です。今までは第4の治療法と言われてきましたが、米科学誌サイエンスの「2013年ブレイクスルー・オブ・ザ・イヤー」にも選ばれました。今注目の治療法で、日本でも新たな免疫治療薬「抗PD-1抗体」が実用化されたという報道がありました。

2年生存率7割に

どのようなメリットとデメリットがありますか。

高柳 最先端の免疫療法

と遺伝子療法を組み合わせたことで、余命3〜6カ月のがん患者の2年生存率は7割を保っています。遺伝子検査をして最初から効果のない抗がん剤は打ちませぬ。ただ、免疫療法は培養期間が2〜3週間かかり、そこから体内に戻すと効果が出るまでに最低1カ月かかります。また、免疫細胞を同時培養することで従来より価格は抑えましたが、1クール（2〜3カ月間）で約200万円かかり、治療の維持費も課題です。

今後の目標は。

高柳 世界では栄養障害で感染症にかかる子どもたちがいまだ多いです。世界の感染症の子どもたちを免疫細胞で助けていければと思います。

免疫細胞培養がん治療